

ご寄付のお願い

2017年7月20日から2018年5月14日までにご寄付頂いた皆様方のお名前です。ありがとうございました。



認定NPO法人発足に伴う変更事項

一般寄付・賛助会費は税控除の対象となりますので、領収書をお送り致します。

- 木村 とも子 様
- 中村 翠 様
- 上野 健太郎 様
- 黒崎 沙安 様
- 荘氣横山 様
- (公財)煎茶道方円流 南九州支部 様
- 松藤 凡 様
- 若松 隆男 様
- 伊地知 修 様
- 河野 嘉文 様
- 片下 美幸 様
- 福重 尚子 様
- 株式会社丸徳水産 様
- 花木 泰行 様

- アイ・エイト行政書士事務所 石川篤子 様
- 鹿児島教区仏教婦人会 様
- きんじょう歯科小児歯科クリニック 様
- 鹿児島県小児科医会 様
- 国分酒造株式会社 様
- 前田 浩志 様
- 岩松 洋一 様



■一般寄付  
 本法人の活動意義をご理解頂き、額の多寡は関係なくご寄附を賜りますようお願い致します。現金収受の方法は、事務局へお問い合わせ下さい。

■個人賛助会員：年会費・・・・・・12,000円

■法人賛助会員：年会費・・・・・・120,000円

■募金箱  
 募金箱をお置きいただける店舗・企業・他を募集しております。ご賛同いただける方は、事務局までご連絡下さい。

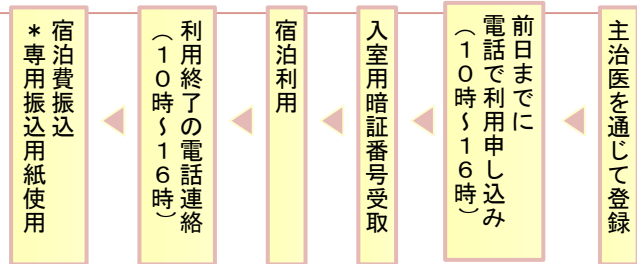
◆ 本法人の活動意義をご理解頂き、活動を支援いただける個人又は企業の入会をお願いしております。

◆ 入会申込書をホームページからダウンロードして事務局へお送り下さい。

「鹿児島ファミリーハウス」のご利用方法

鹿児島市内の病院に通院、入院する患児とご家族のための宿泊施設です。基本的な電化製品・台所用品・寝具・他のご用意があります。  
 ● 1,000円/1泊(宿泊人数は何人でもOK)でご利用できます。  
 ● セルファサービス(清掃、ゴミの始末、その他)です。  
 ボランティアの方達によって維持管理して頂いております。ご協力。

ご利用の流れ



\*(注)要/事前登録/ご希望の方は主治医にご相談下さい。

篤志家のご協力の下に鹿児島市鴨池2丁目(鴨池電停から徒歩1分)にあるビルの部屋(1K、1DK)をご提供頂き、平成19年7月からNPO法人子ども医療ネットワーク運営の鹿児島ファミリーハウスが誕生しました。

お問い合わせ/子ども医療ネットワーク事務局 TEL 099-275-5354

お問い合わせ先

認定NPO法人子ども医療ネットワーク本部

〒890-8520 鹿児島県鹿児島市桜ヶ丘8-35-1  
 鹿児島大学医学部・歯学部附属病院 小児診療センター小児科内  
 電話：099-275-5354

認定NPO法人子ども医療ネットワーク事務局

電話：099-275-5354 / FAX:099-265-7196

活動について・お約束

**活動** 離島やへき地など、小児医療の専門医が少ない地域に住んでいる子どもさんが、長期間の入院が必要な病気にかかった時に、ご家族を含めて安心して闘病できるように支援する事を目的に設立されました。又、難病等にかかり遠方から来院なさるおこさんとそのご家族にも広く門戸を開き、病気に対する不安や疑問を軽減し、外泊あるいは通院にかかる負担を軽減する為の事業を行います。すべてが皆様の共感とご協力のもとに運営されています。

**お約束** 皆様からお預かりした個人情報  
 ・会員のご案内の発送以外の目的で使用する事はありません。  
 ・ご本人の同意なく第三者に開示・提供する事はありません。

会員の方々と事務局を結ぶ.....

こねっと通信

2018.summer VOL.19

- ファミリーハウス
- 健康相談会
- 子ども救急箱
- その他

Save the Children  
 私達は離島・へき地の  
 難病児を支援します

すべての子どもに適切な小児医療と  
 快適な闘病生活を



認定特定非営利活動法人(認定NPO法人)  
 子ども医療ネットワーク





## ●理事長通信●

平成30年2月下旬に第13期の役員会および総会を実施しました。皆様に支えられて14期目に入っております。ファミリーハウスの運営も10年以上になり、南日本新聞社で取り上げられました。部屋を提供していただいた宮下幸三様、維持管理を行っていただいている中間初子様らボランティアの皆様に改めて感謝いたします。

NPO法人は設立よりも維持が大変とよく言われております。特に社員を雇用せずにボランティアだけで活動し、営利事業を全くせず、公認会計士さんに管理していただいている当法人は、日本の中で例外的な小さな認定NPO法人だと思います。会員の皆様の純粋な気持ちだけで継続できたことを誇りに思います。

この間、離島へき地から鹿児島市内の病院に来なければならぬ患者さんの病氣も変化してきました。難病の子ども達の応援団を自認していましたが、アレルギーや発達障害で悩む子ども達の応援がより重要になってきているようです。引き続きご支援のほど、よろしくお願い申し上げます。

(理事長 河野 嘉文)

## ●子ども健康相談会in瀬戸内 報告書●

平成30年2月11日(日)

場所：瀬戸内町すこやか福祉センター

今回の相談会には6家族小児3人の参加がありました。今給黎先生による講演会は「食物アレルギー」というタイトルで、食物アレルギーを中心として、最近のアレルギーに関する最近の話題をわかりやすく解説し、小児アレルギーの専門医がどのように考えているか、今後どのようにしていくか等を示されました。参加されたご家族は「そうなんだ」と頷きながら、熱心に内容を聞かれていました。講演会終了後の質問時間や、個別相談会の際にも、普段から疑問に思われていたことや、困っていることなどについて多くの質問がありました。アレルギーを持っている親には有難い「すこく勉強になりました」とのコメントで、参加された皆様の満足度が感じられました。

(大島病院小児科 池田尚弘)



## ●南日本新聞(平成30年5月4日)に記事が掲載されました

# 闘病中の子と 家族支え10年

鹿児島市で長期入院と語る。 施設は2007年7

する離島へき地の子どもと家族のための宿泊施設「鹿児島ファミリーハウス」が開設されて約10年。県内の小児科医らでつくるNPO法人「こども医療ネットワーク」が運営し、利用登録者は約580人(2018年3月現在)、年間宿泊数はのべ500泊に上る。家族の精神的、経済的な負担軽減に役立つ一方、運営には人的、資金的な不安もあるが、関係者は「できるだけ長く活動を続けたい」と、県内で小児がんと闘病の子と家族の安心の場となっている鹿児島ファミリーハウスの室。

22日、鹿児島市鴨池2丁目

## 病院近くに安く長期宿泊 「鹿児島ファミリーハウス」(鹿児島市)



難病の子と家族の安心の場となっている鹿児島ファミリーハウスの室。

## 子ども医療ネットワーク 「活動できるだけ長く」

以前の利用者や活動に共鳴する人たちの寄付が運営資金となっているが、関係者にはいつまで続けられるかの懸念もある。ネットワークの理事長で鹿児島大学医学部長の河野嘉文教授(62)は「もっと大きな施設がほしい」との声もあるが、維持するのは難しい。自分たちでできる範囲で、活動を引き継ぐ人が出てきてくれたらと期待している。

(野村真子)

鹿児島市で長期入院と語る。施設は2007年7月オープン。病気で子どもを失ったビル所りハウス」が開設されて約10年。県内の小児科医らでつくるNPO法人「こども医療ネットワーク」が運営し、利用登録者は約580人(2018年3月現在)、年間宿泊数はのべ500泊に上る。家族の精神的、経済的な負担軽減に役立つ一方、運営には人的、資金的な不安もあるが、関係者は「できるだけ長く活動を続けたい」と、県内で小児がんと闘病の子と家族の安心の場となっている鹿児島ファミリーハウスの室。

22日、鹿児島市鴨池2丁目

## 子ども救急箱 《スキンケア》

一泡で洗った後保湿を—

子ども医療ネットワーク会員 四元 景子 (今村総合病院小児科)

2017年11月14日 南日本新聞掲載

赤ちゃんの肌は潤っているから何もなくても大丈夫と思われがちですが、実はとてもデリケートです。皮膚は表皮と真皮で構成されています。表皮の一番外側にある角層にはバリア機能があり、細菌や食物アレルギーなどの侵入を防いでいます。水分を保持したり、皮脂が乾燥を防いでいます。この角層が乾燥して隙間ができると、バリア機能は失われ、外からの刺激を受けやすくなります。

赤ちゃんの表皮は大人の半分ほどで、ラップ1枚よりも薄く、水分量は5%ほどしかありません。大人と同じ数の汗腺があるため、汗はたくさんかきますが、肌自体は乾燥しています。生後3カ月ごろからは皮脂量も減り、思春期前までは少ない状況が続きます。表皮が薄い上に水分も皮脂も少ないため、赤ちゃんのバリア機能は失われやすく、そのままでは外からの刺激をたくさん受けてしまいます。産院を退院するころからスキンケアを始めましょう。

お風呂では、優しくしっかりと汚れを落とし、洗い流す。洗い流すときに泣いてしまっても大丈夫です。拭き取った後は、お風呂上がりは、全身にたっぷり保湿剤を塗ります。

今村総合病院 鹿児島市小児科院ではスキンケア導入院を始めました。正しい入浴とスキンケアの方法を習得してもらうプログラムです。

スキンケアをすること、赤ちゃんにも家族にも良いことがたくさんあります。スキンケアを楽しみながら、毎日のケアを続けましょう。



認定特定非営利活動法人(認定NPO法人) **子ども医療ネットワーク**  
ホームページは随時更新中です  
<http://www.kufm.kagoshima-u.ac.jp/~ped/kodomoiryo/>

※子ども救急箱の記事は2006年4月から隔週に掲載されています

「こねっと通信」表面に掲載させて頂けるお子様の写真を募集しております。上記住所にお送り頂くか、E-mail [kodonpo@m.kufm.kagoshima-u.ac.jp](mailto:kodonpo@m.kufm.kagoshima-u.ac.jp) まで

〒890-8520

鹿児島市桜ヶ丘8-35-1 鹿児島大学医学部・歯学部附属病院 小児診療センター 小児科内 「こねっと通信」係